第3回「関西広域産業ビジョン」改訂委員会　議事骨子

1　とき　　令和5年8月7日（月）午後2時45分から5時まで
2　ところ　　立命館大学　大阪梅田キャンパス　5階　演習室2・多目的室
3　出席者　　稲田座長、葛西委員、久米委員、中山委員、黒木委員
（上村委員、小笠委員及び丸山委員は欠席）
中原広域産業振興局長、事務局

4　議事概要

（1）議事1　「関西広域産業ビジョン」の改訂に関する意見交換
①関西経済を取り巻く状況（外部要因）
②将来像実現のためのアプローチ
③定量目標の設定

①関西経済を取り巻く状況（外部要因）

＜委員＞

京都への文化庁移転のインパクトをどうとらえるか。文化と経済の好循環を重要視する中で、単なる文化財の保存ということではなく、アートやデザインをどう産業に展開するのか、それによってどのように高付加価値化を図っていくのかが大きなテーマだと考える。高い目標を掲げ関西の GRP を伸ばしていくためには、ただものづくりというのではなく、世界市場から価値の高いものとして選ばれるために、文化・アート・デザインの力を駆使することが必要。そういった点もビジョンにも書き込んでいただきたい。

また、資料に強弱があればよい。経済界的には、DX は早急に対応が必要。安全保障やサプライチェーン等は企業には死活問題。

＜座長＞

文化庁移転により京都が文化の中心となることは、大きな変化の一つであり、その影響には注目すべきである。

重要な項目は何か、見せ方を工夫することが大事。また、技術トレンドは、一時的な盛り上がりを見せた後、ブームが後退することもある。例えば、メタバース市場の拡大や衛星コンステレーションの構築等は、将来まで継続するトレンドになり得るのか。長期的に続きそうなトレンドかどうかも含め、強弱を検討する必要がある。

＜事務局＞

文化庁移転は、現行資料に直接的な記載はない。世の中で様々な変化が起

こる中で、いろいろな化学反応を起こし、より高付加価値のもの、産業的に意味合いが強いものをトレンドとしてピックアップしている。

強弱については、関西につながりそうなもの、水面下も含め、何かうごめきがありそうなものは、キーワード的に挙げている。

＜座長＞

よく似たワードをまとめ整理する、キーワードでグルーピングする等工夫は可能。例えば、「地域の安全確保政策」で空き家・商店街の空き店舗増加や買い物弱者をカバーする。また、過剰な記載がないかも含め、確認が重要である。

＜委員＞

メガトレンドはGXとDX。また、前回のビジョン改訂以降を考慮すると、コロナ発生やウクライナ情勢等の地政学的リスクがあり、これは全く予見できなかった足元の事象である。さらには、それらに関わるプレーヤーとして、スタートアップや後継者がいるという整理かと考える。

文化は重要な視点。クリエイティブの力が地域資源にストーリーをつけ、付加価値が上がる。日本や関西がもつ良さを引き立てる、よりよく見せる仕掛けとしての文化の力を明確にすると、より関西らしいビジョンになるのではないか。

＜座長＞

課題の大小が異なる項目が混在している印象を受けかねない。それを避けるためにも、もう少しきれいに並べるか、メガトレンド（大きな潮流）をピックアップして小項目を紐づけるという整理方法もある。

＜委員＞

関西経済を取り巻く状況を整理することで、ピンチをビジネスチャンスに変えるという見方ができるとよい。

また、地方創生の観点から考えると、ひと・まち・しごとの切り口から整理できるかもしれない。空き家や買い物弱者の増加等は地域が抱える課題。解決のためには、まちを作る、それも、コンパクトシティにスマートシティを掛け合わせたコンパクトスマートシティを目指していくことが重要。まちづくりという観点も含めると、そこで生活する方々もイメージがつきやすいのではないか。

最近日銀の動き（国債発行額 1200 兆円）が目立つが、落としどころが見えない。後ろ向きなことで扱いが難しいが、将来に向けての視野としてもっておくべきだと考える。

＜座長＞

人口減が進むうえで発生する問題と、その解決が迫られているということが地方の一トレンド。グローバルな視点と、地域目線（足元の変化）で外的要因をまとめる方法もある。

物価については広域連合で対応するのは難しいが、コロナやウクライナ情勢

等の予見しにくい変化と、一方で、働き方改革の定着等ある程度予期しやすい変化について、変化の兆しをビジョンに書き込めないか検討すべきかもしれない。

＜事務局＞

事象のどれをピックアップするか、また、どう見せるかが悩ましい。ジャストアイデアだが、一つは時間（短期、中長期）、もう一つはエリア（ゾーン、都市部か地方か）でマトリクス化すると状況が見えやすいかもしれない。

物価の動きについても、長い目で見れば消費という観点から GRP の上昇につながる。ピンチをチャンスにという両面から整理する工夫をする。

＜委員＞

関西やそこに住む私たちの生活が２０４０年にどのように豊かになっているのか具体的に思い描けるとよい。例えば、買い物弱者の増加とあるが、2040年には、都会でも地方でも常に誰かがものを届けてくれることで買い物弱者がゼロになり、精神的にも落ち着いた生活ができるというものなのか等、目指す豊かな世界の絵姿が見えると、現在の社会課題やそれについての取組も道筋としてつながってくる。豊かな世界をつくるために様々な産業があり、関西が一歩進んだかたちで提供していけるからこそ、産業が他地域よりも成長していくという姿を皆で共有できるよう、需要や市場といった、ビジョンがかなった姿を書き込めるとよい。

また、将来的なリスクより成長要因のほうが多い印象をうける。

＜事務局＞

産業振興ビジョンのため、域を越えた社会像・未来像を広く描くのは難しいが、それを見据えた産業の在り方や果たすべき役割は、数値や現象でなるべく具体的に示したい。共有できる象徴的な何かを設定できないか、工夫する。

現状として項目挙げしている生産年齢人口の減少は、長期的な視点で見ると将来的なリスク要因になり得るなど、（見方により）重複記載となってしまう。現状項目のすべてを将来的なリスクや成長要因に置き換えることはせず、見せ方を工夫したい。

＜座長＞

大体の項目出しや議論はできているので、見せ方を工夫することで、強弱の判断にもつながり、より分かりやすい資料となる。

②将来像実現のためのアプローチ

＜委員＞

高付加価値化を目指し GRP の目標値を達成するためには、関西のサービスや商品は質が高いということを国内外の消費者へ訴求することが重要。関西をどのようにブランディングするか、関西広域連合が議論し主導する必要があると考えるので、高付加価値化のビジョンへの書き込みについて、もう少し検討してほしい。

万博で新技術やスタートアップ等国内外のプレーヤーが大阪に集うというチャンスを一過性のものとすることなく、レガシーとして関西に残すことが必要。それには、人の集積や新技術を関西に取り込んでいくことを今の時期から戦略的に考えビルトインしていくことが非常に重要だと考える。

広域連合の役割については、他にない広域的な組織としての強みをもう少し書き込めるのではないか。関西広域産業共創プラットフォームしかり、関西エリアの府県を越えたデータ連携は、企業の期待度も高く、エリアとしての競争力を高めるものである。

【めざす姿】

＜委員＞

新たな産業の創出が重要だと考える。かつては繊維や家電であったが、現在関西にリーディング産業はなく、低迷状態である。

＜委員＞

産業構造の転換について、スタートアップへの理解、Ｍ＆Ａ、出資といった、大企業が果たす役割も大きい。大企業の判断力（迅速性、理解力）は、関西より東京が勝るというスタートアップの声もある。スタートアップのイノベーション力も限りがあり、大企業の後押しがあってこそ加速する。

ブランディングは重要で、魅力向上に加えて、発信することが必要。発信することで国内外から人を呼び込む、スキルがある人材の受け皿が関西にはあることを示すことができる。

＜委員＞

「関西産業の魅力向上」のポイントが人材なのであれば、「新たな産業の創出」や「産業構造の転換」を支える人材を育成するというような表現に変えたほうが分かりやすい。また、全体的に大学との連携に関する記載が弱いが、人材は大学が大きく関わる項目である。

＜委員＞

目指す姿よりも主要な取組方針という印象。内容的には違和感がないが、表現は要検討かと思う。

＜事務局＞

定性目標（世界の中で輝き～、産業を支える多様な人々が～）は抽象的すぎるため、ブレイクダウンし具体性を持たせたものが3つのめざす姿である。現資料において目指す姿はキーワードとしてとどめているが、文章化する際には、どのように将来像を目指していくのかという方法論とするのか、もしくは、達成された姿である着地点とするのか、どちらがより万人に分かりやすいか見定めていきたい。

【成し遂げたい関西のチャレンジ】

＜事務局＞

チャレンジ②は、今ないものにチャレンジする新たな一歩。一方で、チャレンジ③は、今もっているものをきっちり、もっと、という地盤強化のイメージである。例えば、国内市場が飽和状態であれば海外市場へ展開する、すでに市場が存在し世に通用する良いプロダクトを、付加価値をつける等、違ったアプローチを行うことで幅広く展開していくということ。

“両利きの経営“でいうところの、①②は探索、③④は進化。一企業が行う作業ではなく、関西（全体）としてステップアップする右肩上がりのトレンドを作っていくためには2つの取組・作用が必要だと考えた。新しいものに取り組むことと、今あるものも成長させ持続的に伸ばしていくことである。

③について、海外展開を例にあげると、より広い市場で、そして結果的により多くの（数の）プロダクトを提供するということ。伝統産業を例にあげると、高付加価値化やプロモーションも含めて、より広く、より多くの方に提供するということ。様々な意味を込めている。

＜委員＞

一般的な計画では民間や行政の役割が具体的に書き込まれているが、本ビジョンでは明記がない。しかし、主語は関西全体だと理解した。

＜委員＞

チャレンジ②と③は“アンゾフのマトリクス”の一部に当てはまる。言葉が類似しているために読み手に混乱を与えるなら、がらっと表現を変えてはどうか。

＜事務局＞

チャレンジ①について、産業として右肩上がりの成長トレンドを作るには、エコシステムをただ作るだけではなく、それがビジネスとして成立する必要があるという意味を込めている。

＜委員＞

「生産効率の高いエコシステム」の表現は誤解を招く恐れがあるため工夫が

必要ではないか。

【関西産業が、さらに前進、成長していくためのキーワード、キーアクション】

＜座長＞

カタカナ表記が多い印象を受けます。一工夫してください。

＜事務局＞

物事を大きく括るためにキーワードを活用し、それをどのように実施していくかという具体的なアクションを右側に配置している。キーワードからアクションへつながる線は必ずしも1対1の関係ではなく、重層的にクロスしていくイメージ。また、推進力となり得る、重点的に取り組むべきキーアクションのみをピックアップしている。

コアコンピタンスは、関西にある今の根っこの強さをベースに発展させていくという考え。チャレンジ①を例にとると、新産業をつくりだす場合も、素地が皆無のものにチャレンジするのも強みにはならないという意味で、どこかにオリジナリティやポテンシャルや強みが存在する（ものへチャレンジする）のであろうし、②③はベースがある上で（関西の強みやポテンシャルを）どのように発展的に転用していくのか、深めていくのか、プラスアルファの高付加価値というかたちで活用していくのかという違いを意識して整理した。

キーワードに優劣や順序はなく、いろいろな要素（キーアクション）と掛け合わさり、つながるような見え方のほうが意図が伝わると考えている。

＜委員＞

レジリエンスやケイパビリティはあまり一般的に使われる用語ではないように思われる。人材に関するキーワードがあってもよいと考える。

万博は未来社会の実験場をコンセプトにうたっているし、クラスターは産業クラスターのほうが分かりやすいと思う。表現を検討いただきたい。

【広域連合の役割】

＜事務局＞

広域連合の取組事業には踏み込まず、意図的に「バリュー」を示すことに留めた。大阪府商工労働部の R5 年度当初予算額7,800億円と比べ、広域産業振興局の当初予算額は5,500万円ほど。できることは限定的であるにも関わらず、大きな風呂敷を広げるかのような取組をビジョンに書くことは難しい。ただし、果たすべき役割についてはしっかりと示し、具体的なアクションは予算規模の中から取捨選択をしながら骨子案作成段階において見せられるようにしたい。

＜委員＞

産業界として、（広域連合の存在価値について）評価すべき部分は多い。構成府県が歩調を合わせることで、結果として関西全体の成長が望めるということは、他地域への PR にもなるため、ビジョンにおいて書き込めるとよい。例えば、広域的なデータ連携は、他エリアでは実施していない。関西で標準化が進めば、他地域への優位性になるし、企業も興味をもつ部分だと考える。

＜座長＞

シナジー効果を確認できれば成功事例となる。（連合の役割として、）その効果を発揮可能な分野を示す等はできるのではないか。

＜事務局＞

構成府県市と意見交換を行った中で、府県市単独で実施するには限界があるものがあると聞いている。それを広域連合として実施するのか、自治体間連携で整理するのかは議論を重ねたいが、広域連合でできるものについては、ビジョンにおいても何らかの形で表現したい。

③定量目標の設定

＜座長＞

大阪府市が大胆な目標を掲げる中で、（連合域内の）他府県も影響を受けながらシナジーを発揮することで、関西全体で伸びしろがあると考えられる。日本の成長も考慮した際に、関西は2040年時点で GDP シェア22%くらいだろうと前回の改訂委員会で議論したが、大阪府市がけん引しスピルオーバーが発生すると、成長が加速されボトムアップが期待できるため、（今回の事務局の提案である）GDP シェア率25%には意味があると考える。他府県市のがんばりも必要で、実現可能性は数字をチェックしていくこととして、目標値については、少し幅をもって25%でもよいのではないかということ。

最近、物価が上昇していることもあり、（経済の）好循環が始まる可能性もある。名目 GDP が上振れすることもあり得る。変化の兆しが出てきているので、定量目標の設定（25%）の提案も大きな間違いはないかと考える。

（2）議事2　その他（今後のスケジュール等）

意見なし

以上